



れんけい

題字: 松尾信彦書

院長就任ご挨拶 太田吉夫

このたび、塩田邦彦前院長の後任として、2014年4月より院長を拝命いたしました。大変光栄に思いますとともに、職責の重さに身の引き締まる思いです。

当病院の特色としては、急速に病態が変化する時期に集中して治療を行う急性期医療に特化し、重症患者を中心に受け入れる三次救急医療に重点化するほか、災害時医療やべき地医療にも取り組みます。

今年(2014年)3月に開院した新病院では、高度急性期医療を行うために、高精度放射線治療装置・ノバリス(県内初)、PET-CTのような最新の医療機器を導入し、ハイブリッド手術室も整備しました。

さらに、疾病予防の重要性が高まっていることから、がん検診センターの機能を統合いたしました。日帰りの人間ドックだけでなく、PET-CTを使った検診や脳ドックを実施し、検診から治療まで一貫して実施できる体制を構築しています。

また、基幹災害拠点病院として、災害時に医療提供を続けることができるよう、最新の免震構造をもつ建物や敷地の地盤改良に万全を期すとともに、屋上にはヘリポートを設置し、災害時には多数の患者さんを収容するほか医療行為を行うことのできるトリアージスペースや災害活動空地を確保し、災害医療の中心的な役割を担ってまいりたいと考えております。

当院が、今後とも、県の基幹病院として、安全・安心な医療を提供し、県民の皆様や地域の医療機関に一層信頼される「県民医療最後の砦」の役割を果たせるよう取り組んでまいります。



新中央病院ニュース(公共交通機関の利用について)

新病院へのアクセスは、車のほか、タクシー・バスをご利用できます。

バスについては、新たに運行が開始された「県立中央病院線(ことでん瓦町駅東口～ことでん今橋駅～新病院)」と、ルート変更をしました「朝日町線(JR高松駅～新病院～朝日町)」の2ルートがあり、県立中央病院線は約60分間隔で、朝日町線は約30分間隔で運行をしています。

今後とも、当院が引き続き香川県の中核病院としての役割を十分に果たせるように取り組んでまいりますので、皆様のご支援・ご協力をお願いします。

中央病院へのバス時刻表

朝日町線 (△印は土日祝、年末年始運休)				県立中央病院線			
高松駅 発	中央 病院着	中央 病院発	高松駅 着	瓦町駅 東口発	中央 病院着	中央 病院発	瓦町駅 東口発
△7:38	△7:46	△7:32	△7:41	7:30	7:40	7:45	7:57
△8:02	△8:10	△7:47	△7:56	8:00	8:10	8:15	8:27
8:13	8:21	△8:20	△8:29	8:30	8:40	8:45	8:57
△8:30	△8:38	9:00	9:09	9:00	9:10	9:45	9:57
9:00	9:08	9:30	9:39	10:00	10:10	10:45	10:57
9:30	9:38	10:00	10:09	11:00	11:10	11:45	11:57
以降、30分毎	以降、30分毎			12:00	12:10	12:45	12:57
16:30	16:38	17:20	17:29	13:00	13:10	13:45	13:57
17:10	17:18	17:50	17:59	14:00	14:10	14:45	14:57
17:50	17:58	18:20	18:29	15:00	15:10	15:45	15:57
18:45	18:53	18:50	18:59	16:00	16:10	16:45	16:57
19:05	19:13	19:20	19:29	17:00	17:10	17:45	17:57
19:45	19:53	19:50	19:59	18:00	18:10	18:45	18:57
20:25	20:33	20:20	20:29				

退職者挨拶

前院長 塩田邦彦

3月末をもちまして香川県立中央病院を退職いたしました。足掛け36年間にわたって皆様に大変お世話になり、ありがとうございました。

昭和51年1月の着任当時は、今の時代では後期研修に当たる時期でした。全身麻酔をはじめとする手術のお手伝いから、心カテや血管造影など術前検査などをしつつ、外科手術の勉強をさせていただきました。三年間、岡山大学第二外科に帰局し、博士論文を作成し、昭和55年11月に再度赴任してからは、消化器外科医として、精進させていただきました。平成3年には腹腔鏡下の胆囊摘出術を香川県下で最初に施行し、内視鏡下手術の幕を開けました。その後多くの科で内視鏡手術が普及しています。当院では、今年度ロボット手術導入の予定です。それから、平成17年の地域がん診療連携拠点病院の指定、平成22年の地域医療支援病院の指定など、皆様と共に県民を支える病院として歩んでまいりました。

昨年4月からは松本前院長の後を受け、院長職を拝命いたしました。慣れないことばかりが続く毎日を加えて、新病院の開院準備があり、毎日が緊張の連続でしたが、皆様のご理解とご協力に支えられ、なんとか3月1日に入院患者移送、3月4日に外来診療をスタートさせ、開院することができました。ありがとうございました。

またこの間、当院において受け入れが難しい患者さんについては、高松赤十字病院の皆様をはじめ、多くの医療機関の皆様に受け入れていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

新中央病院の開院に時を合わせ、私はこの病院を去ることとなりましたが、香川県立中央病院はこれからも「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民並びに地域医療機関から信頼される病院」を目指してまいります。どうか今後とも、我々に力を貸しくださいますよう、お願い申し上げます。

最後に、36年間、私を励ましていただき、お叱りをいただき、ありがとうございました。私の人生がこの病院と共にありましたことを誇りに思い、これから的人生を歩んでまいりたいと思います。

ありがとうございました。

退官を迎えて

前副院長 渡邊精四郎

7年間も中央病院で仕事をしたと、にわかには信じられないくらいはやく時が過ぎ去ったように思います。多くの仕事のなかでも緩和ケアチームの一員として患者さんそれぞれの人生の終局に関わった経験は、その途中で私自身の母の在宅介護と重なって、いのちを看取るという仕事の奥深さや、身内の死という虚しさを抱えて生きている人々の存在を改めて実感しました。人の生き死には人の心を打つ強い力を持っています。患者さんは真剣なまなざしで語ってくれます。その対話から、私自身も「共に生きていてほしい人」と一人でも多くの人から思われるよう努力しようと思いました。



「ミネルヴァのフクロウは黄昏に飛び立つ」(ヘーゲル)。年齢を重ねることは決してマイナスばかりではありません。ローマ神話の知恵の女神ミネルヴァのフクロウのように生きてきた人生の知恵を翼に変え、キラリと光る強い意志、あきらめない気持を持ち続けて飛び立てば、豊かな経験が共に仕事をしようという仲間の心に灯をともして、必ず希望は成就すると思います。

また、臨床に戻ります。テニスも続けます。時々新病院にも顔を出します。これまでお世話になった皆様のご厚誼に感謝するとともに、新たな歩みを始めた本院のますますのご発展を祈っています。

退職の御挨拶

前副院長 河合公三

私はこの3月末日をもって香川県立中央病院を定年退職となりました。私にとっては、在職した28年間は消化器内科の辿った歴史でもありました。



思い起こせば、昭和61年4月岡山済生会総合病院より37歳の若輩にて消化器内科の責任者として赴任しましたが、当時の内科は循環器と糖尿病以外は専門性がほとんどなく、消化器分野においては各医師が独自にX線造影検査や内視鏡検査をされていて私が専門医として必要とされる場合は果たしてあるのだろうか、地元香川で仕事をしていく以上諸先輩や同僚との和を乱すことは不本意であるとは思いつつ、本来自分が県中ですべき使命は県の基幹病院として恥じることのない消化器内科の創設であるという強い信念も捨てきれず、しばらくは心中穏やかならぬ日々が続きました。

しかしながら、幸いにも同年12月に喜田恵治君が肝臓専門医として、さらに翌62年には呼吸器内科医の亀井雅君が赴任し、それぞれの分野で活躍され、当消化器内科も平成元年に吉田康博君、平成3年に武南達郎君等の強力なアシストを得て次第に確固たるものとなり、内科の臓器専門性は不可欠であるという共通の理解が内科はもとより病院全体に浸透してきました。そして、私たち消化器内科は院外の活動として、県内に留まらず四国のお諸先生方とも学会や研究会を通して積極的に交流を深め次第にその名も知られるようになりました。

さらに、当消化器内科を名実ともにbreakthroughさせたのは平成9年に赴任してきた稻葉知己君であり、その後和唐正樹君や石川茂直君等の強力なメンバーも加わり、昼夜を問わぬ緊急内視鏡から各種の内視鏡的治療も常時提供できるようになり、学会総会等での積極的活動も相まって、今では優れた消化器内科と全国的にも評価されるに至ったことは私にとって至上の喜びであり誇りでもあります。

最後に、当院と常々連携して頂いています先生方には私事長い間大変お世話になりましたことを心より感謝申し上げますと共に、当院は新病院となりまだ日が浅く、何かと御不自由をお掛けすることも御座いましょうがどうか御容赦頂き、今後とも益々の御支援、御高配を賜ります様お願い申し上げお別れの辞とさせて頂きます。

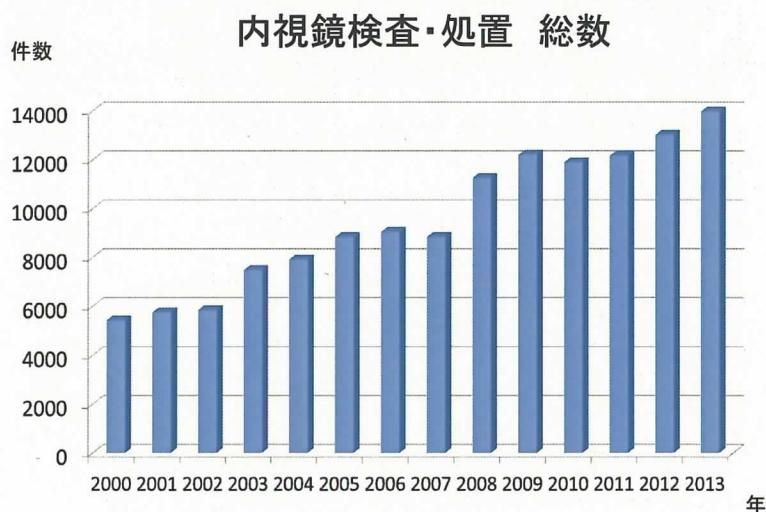
データで見る中央病院 「内視鏡センター」 消化器内科 診療科長 院長補佐 稲葉 知己

内視鏡センターは、消化器内科の医師を中心とし、消化器・一般外科や肝臓内科の医師の協力も得ながら、消化器内視鏡検査や治療を行ってきました。内視鏡検査件数の増加および治療手技の高度化に対応するため、2005年に旧病院における内視鏡センターの改築を行いましたが、検査、処置の増加に対応できませんでした。現在の新中央病院内視鏡センターでは、9つのルームを有し、呼吸器内視鏡による診断治療も担う高機能センターとなっています。

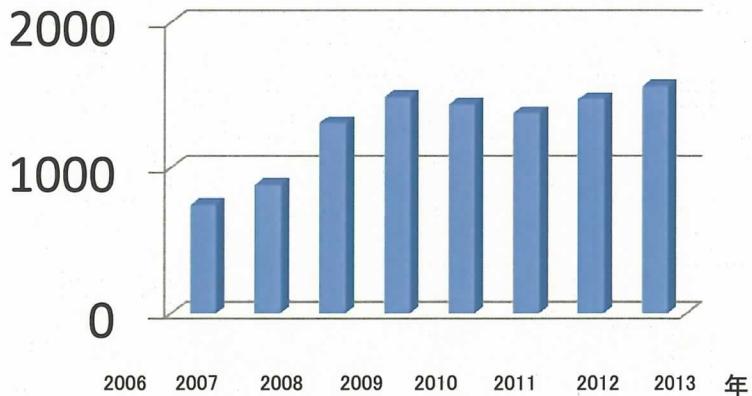
当センターでは、従来、検診やドック等のスクリーニングの内視鏡はあまり行っておらず、精査あるいは治療内視鏡の割合が高いのが特徴でした。現在の新病院では、検診やドックのレントゲンあるいは内視鏡検査は、検診センターが担当していますが、同一施設である利点を生かし、検診発見の悪性疾患の精査加療が円滑に行われる体制となっています。

治療内視鏡は、早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)の施行数は中四国のトップクラスにあり、胆嚢内視鏡的治療も最新の難易度の高い治療が行える体制となっています。また、小腸、大腸のカプセル内視鏡診断も増加しつつあります。

今後は、検診センターと連携しつつ内視鏡診断の教育も積極的に展開し、紹介医と共に診断および治療を展開するオープン内視鏡センターを目指しています。



内視鏡手術件数
(ESD、EMR、止血術、静脈瘤硬化療法、狭窄拡張、ステント等)



認定看護師の紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 近石 昌子

皮膚・排泄ケア認定看護師とは床ずれ(褥瘡)のできやすい人、あるいは既にいる人、外傷による創のある人、ストーマ(人工肛門・尿路変向)や瘻孔を持つ人、排尿・排便に悩んでいる人(尿・便失禁・便秘)を対象にケアを提供している看護師です。

私は現在、褥瘡管理者として、院内の褥瘡予防、褥瘡発生時のケアを担当し、病院内を横断的に活動しています。褥瘡発生はその病院の質を問われるものであり、一人でも褥瘡発生することなく退院していただくことを目標とし、また褥瘡を持たれて入院された方が少しでも回復するよう他職種と連携して活動していきたいと思っています。

看護外来として院内には「ストーマ外来」と「骨盤機能外来」があり、私は主に「骨盤機能外来」を担当しています。

排尿関連の外来は散見しますが、排便関連の外来を開設している施設は非常に少ないため、年間のべ100人程度の受診数ですが、受診者数の8割は排便障害の方です。排泄の問題は命に直結することが少なく「恥ずかしい」といつてお一人で悩まれる方が多いのが現状です。しかし生活の質(QOL)に関わるものなので、悩まれる方が一人でもよくなるようにサポートしていきたいと思います。



医療セミナーを開催しました。

1月16日(木)、旧中央病院南館10階会議室において、「オンコロジーエマージェンシー」と題して医療セミナーを開催しました。講師は呼吸器外科の青江 基部長、救命センターの岡 智医長でした。参加者は医師等38名で、院外からも21名の先生方にご出席いただきました。

がんの急速な症状の進行により「がん救急」と呼ばれるオンコロジーエマージェンシーについて、呼吸器、消化器の専門家が、その症状別に解説する、大変わかりやすい講義になりました。

今後も当院における医療を代表し、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。是非ご参加下さい。



松下 幹春
(麻酔科)

1月5日付

転出



す。④心を込めて働きま
す。③散歩 ②平成23年
①香川大学
(脳神経外科)

藤森 健司



佃 早央莉
(循環器内科)
①岡山大学
②平成19年
③テニス
④不整脈、心不全、
虚血等循環器疾患
バード病院の幅広い分野を力
精進しています。
丁寧な診療を心がけ
てありますのでよろし
くお願いします。

1月1日付

転入

自己紹介は、①出身大学
②卒業年
③趣味
④抱負です。

医師の人事異動